

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	おおさかふりつせんぼくこうとうがっこう				②所在都道府県	大阪府
27～31	①学校名	大阪府立泉北高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	国際文化科	480 (160名/学年)
国際文化科	160	160	160		480	総合科学科	360 (120名/学年)
						計	840名
⑥研究開発構想名	共存共栄で持続可能なビジネスモデルを創造する次世代リーダーの育成						
⑦研究開発の概要	グローバル・リーダーたる資質を、「志（マインド）」と「実体験に基づく知識（ナレッジベース）」、「人とのつながりを作り活かす力（ヒューマンスキル）」ととらえ、それらを、国際学科であるがゆえに獲得できる道具としての複数言語運用能力のもとに高校卒業時に開花できるように、学年進行で課題研究とフィールドワーク、ASP ネットの活動等を有機的に組み合わせて、ビジョンを持つと同時に地に足のついた提案力・実行力の伴う人間の育成を行う。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p><目的> 社会の活動主体である企業（生産者）、消費者がなぜに社会の持続可能性を意識した活動をしなければならないかの問題意識を醸成することを通じ、共存共栄での持続可能なビジネスモデルを創造する次世代リーダーの育成を目的とする。限りある地球資源を人類共通の財産ととらえて、今後ボーダーレス化して行く世界で、産出国と加工・消費国という枠組みでなく、地球全体で共存共栄し、将来も持続可能な地球経済の仕組みを作り上げるようなビジネスモデルの創意・提案し、自ら先頭に立って構築できるようなグローバル・リーダーの資質を育成することを目的とする。</p> <p><目標></p> <p>1. グローバルマインド育成 将来自分のキャリアとして世界に出ていこうとする志や、世界の中の日本経済の今後を考えて外国で高度な教育を受けようとする意志、また、学習や仕事の相手となる外国の立場やその文化、その国や地域の伝統や経済を大事にする配慮が出来る精神の育成。</p> <p>2. グローバルナレッジの獲得 持続可能なビジネス構築のための経済の基礎知識と社会の動きへの好奇心の維持を持ちつつ、歴史や文化に対する理解やフィールドワークや現実体験による知識の体得。</p> <p>3. グローバルヒューマンスキルの体得 外国の教育機関とのネットワークの構築や実際に学生たちが国際会議を開いている場での実習を通じてイニシアティブをとって問題解決を果たすための技能や方法を身につける。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>国際文化科と総合科学科を併設する専門高校として、総合科学科は平成18年度より2度のSSHの研究指定を受け、課題研究のノウハウを積み重ねてきた。特に2期目は英語のできる国際的科学者の育成を目標に国際文化科での外国教育の経験を活かすような研究開発に取り組んでいるが、総合科学科での取り組みを国際文化科の教育に活かすことがなかった。</p> <p>また、身につけた言語能力を武器として、世界の問題を解決できるような人材育成を今後このSGHの取り組みで実践する。</p> <p>研究開発の中心は、企業との連携で現実の社会やビジネスの動きを学び、大学との連携によりその学術的背景を学ぶことを通じ、持続可能な社会づくりの問題意識を持った人材を育成する。さらに「国際会議開催体験」など自分たちの提案を実現するヒューマ</p>					

		<p>ンネットワークの構築力の醸成を図る。それらのスキルと体験をもとに、SGU への進学等につながることも期待でき、継続した学習マインドの土台を持った生徒を輩出する。</p> <p>(3) 成果の普及 研究発表会の開催、レポートや論文集の発行。2年目以降に開催する国際理解フォーラムや3、5年目に本校主催での高校生による持続可能な発展のための提案をする国際会議の開催。</p>
<p>⑧ -2 課 題 研 究</p>		<p>(1) 課題研究内容 【グローバルマインド育成・グローバルナレッジの獲得のための主な活動】 社会の活動主体である企業（生産者）、消費者がなぜに社会の持続可能性を意識した活動をしなければならないかの問題意識を醸成する。特に、「グローバル基礎」を通じ、グローバル事業を展開する企業の取り組み実態や学術的な補強授業を通じ、「持続可能な調達」「持続可能な開発のための教育」及び「多くの企業の生産財の調達地域の文化伝統を活かし、さらに経済の自立を促す方法論の構築」に関する課題研究を行う。 【グローバルマインド育成・グローバルナレッジの獲得・グローバルヒューマンスキルの体得のための主な活動】 課題研究で発見した問題の解決方法を実践できるよう、学校認定の課外活動（詳細は後述）を30時間行った場合、「グローバル活動Ⅰ」「グローバル活動Ⅱ」で各1単位を認定する。 課題研究をさらに発展させる取り組みとして、「グローバル課題研究Ⅰ」、「グローバル課題研究Ⅱ」を通じ、地域で開催する「国際理解フォーラム」、海外からの高校生を招待した「国際会議」を実施する。そして、リトアニア等の北欧諸国やボルネオでのフィールドワークなどを通じて課題研究を海外の視点から深める。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価 課題研究は2年次と3年次に「グローバル課題研究Ⅰ」「グローバル課題研究Ⅱ」において国際文化科全員が取り組む。また、国際文化科1年生の希望者対象に「グローバル基礎」を開講し、1年次から課題研究を始める。「国際理解フォーラム」は研究開発2年目と4年目、「国際会議」は3年目と5年目に国際文化科の1、2年生が運営の中心となって実施する。また、海外研修は希望者から選考して実施し、参加者それぞれが取り組んでいる課題研究のテーマを深める研修を行う。検証評価は、アンケートの実施やルーブリックに基づいたパフォーマンス評価を取り入れ、国内で開催される模擬国連大会への参加者数や成果をまとめた小論文及び課題研究中間発表会と課題研究発表会などでの発表成果によって行う。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 特になし 「総合的な学習の時間」を「グローバル課題研究」の名称で実施。</p>
<p>⑧ -3 上 記 以 外</p>		<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 TOEFL iBT 対策を中心とした学校設定科目「ACT」を開講して、グローバルリーダーに必要な英語力の育成をめざすとともに、SGH 事業で意識を高めた生徒が海外大学に進学あるいは留学する際のキャリア保障につなげる。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 特になし</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法 特になし</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>		<p>該当なし</p>